

歩 -AYUMI-

一歩一歩進む 少しずつ目標に近づく

(単位：人)

	進 学							就 職						合計		
	4年制大学		短期大学		専修 各種	専攻科	その他	進学計	民間企業		公務員		自営		その他	就職計
	国公立	私立	国公立	私立					県内	県外	県内	県外				
普通科	6	5	5	4	8		28	11	9	3	2	1	1	2	30	
総合ビジネス科	1	13	2	5	23		44	18	14	2	3	1	1	25	69	
工業技術科	2	6			18	1	1	28	18	14	2	3	1	1	39	
合 計	9	24	7	9	49	1	1	100	29	23	6	6	1	1	66	
		33		15					52		12					

今年度の卒業生の進路状況

進学と就職の割合は例年並みに

この3月に卒業した生徒のほぼ最終となる進路決定状況をまとめました。進学を選んだ人は100名、就職した人は66名となり、例年の本校の割合である進学60%、就職40%に完全に当てはまる傾向となりました。民間企業への就職に関しても、例年は県内企業と県外企業がほぼ同数でしたが、今年度はそれに近づいてきております。昨年度の卒業生は県内就職が県外就職を大幅に上回っており、その原因は新型コロナウイルス感染症と考えられてきましたが、今年度はその影響がほぼなくなってきているとみられます。

3月は大学入試の一般選抜の結果が出る月になります。この選抜に向けて2月も休まずに学校に来て勉強に励んでいる卒業生の姿がありました。今回の進路選択での特徴的な動きは、比較的合格難易度が高い国公立4年制大学へ合格したにも関わらず、別の進路を選択した人がいたことでした。実際の国公立大学への進学者は9名ですが、合格者は11名となっております。せっかく難しい大学に合格できたのだからと、学問上の多少の違いに拘らずにその進路を選ぶ人もいますが、自分のやりたい勉強を最優先して進路を決定することは進路選択の基本です。また、3月12日(日)に行われた国公立大学後期日程まで努力を継続した生徒もおりました。その努力する姿勢は本当に素晴らしいものでした。

大学に合格した卒業生に共通することは、コツコツと努力を積み重ねていることです。日々の授業や補習にしっかりと参加し、学習課題にしっかりと取り組み、家庭でも得点アップや自分の弱点補強のために時間を費やしています。高校までの学習の成果を大きく左右するのは、どれほど学習に時間をかけたかです。「やろう!」と本気で決心をして地道に取り組んだ人が、その目標を達成していくのです。



入試分析

今年も1月に「大学入学共通テスト」が実施されましたが、このテストが終わると模擬試験実施会社や受験問題集出版会社などからテスト問題の分析資料が送られてきます。また、対面やオンラインでの分析会も実施されています。そして来年度に入ると、今年度の大学入試の全体像を総括した分析資料も送られてきます。これらの分析には各教科の出題傾向、学部志望動向、合格状況から見た難易度の変化などが記載されており、有益な情報源となっています。

どのような試験を受ける場合でも、以前に実施された試験の内容をつかみ、それに合わせた対策をすることが必要です。大学入試に限らず、早めに今年度の出題状況をつかみ、各自の進路活動に活かすようにしてほしいと思います。

1年生へ

2年生の1年間が成功を大きく左右します

高校2年生はのんびり過ごせる時間と思われがちですが、3年生の1学期は部活動や学校行事で進路活動だけに集中できないのが現実です。そして夏休み明けにはもう試験の本番を迎えるということになります。2年生のうちにどれだけ準備しておけるのが重要だということが分かります。今から取り掛かりましょう。

2年生へ

3年生1学期の成績が3年生の成績です

多くの人にとっては進路を決める試験まで半年ほどとなりました。そして3年生の成績として書類に記載されるのは1学期の成績です。何かと忙しい1学期ですが非常に重要な時間になります。気持ちを引き締めての新学期のスタートを切ってください。

4年間の勤務を終えて

就職支援員の小林大介さんが今年度を最後に御退職されました

令和元年から主に本校で就職支援員として勤務しておりました小林大介さんが、今年度をもって御退職となりました。この間小林さんには、主に県内の民間企業と就職希望の生徒の皆さんとの橋渡しをしていただきました。小林さんのおかげで地元企業の情報も豊富にもたらされ、卒業生には面接指導を通して「就職」を基本から丁寧に指導していただきました。この度、退職にあたって小林さんに所感を書いていただきました。

4年間の就職支援員の勤務を終えて

湯沢翔北高校就職支援員 小林大介

3月10日をもって、今年度の就職支援員の勤務が終了となりました。諸先生方の御協力を得て、就職希望の生徒全員の進路が決定したことを、心よりお祝いを申し上げます。

さて、この仕事を目指すことになったキッカケは、前職（一般企業）において、会社代表として、秋田市商工会議所の会員を4年間勤めました。その際に参加したプロジェクトで「秋田の未来を考える」がありました。その中で、最大の課題として取り上げたのは「人口減少」であり、特に4月に県全体で高校の卒業生4,000人以上の転出がありました。どうしたら、地元に戻ってもらえるかを真剣に論議しておりました。そのことから、現職に興味をもち、応募した次第です。

4年間の就職支援員としての勤務を終えて、気づいたことを記します。

<問題点>

- ・求人数の多さ（県南3地区だけで毎年600件以上）に対し、当校の就職希望者は50人弱であり、採用難による慢性的な企業の人員不足が伺える。
- ・横手地区等での誘致企業の増加で大量の求人が予定されており、更に人員不足に拍車をかけている。
- ・出生数が毎年継続して減少しており、人口減少が止まらない。（＝労働人口の減少）
 - ※湯沢市：令和2年（2020年）153人、令和3年（2021年）134人（△19人）、平成24年（2012年）年284人（△150人）
 - ※秋田県全体：令和2年（2020年）4499人、令和3年（2021年）4335人（△164人）、平成24年（2012年）6543人（△2208人）
- ・労働人口の減少＝企業の人手不足による労務倒産への懸念
- ・進学する生徒が6割以上いるが、企業の求人は高卒が主体で大卒の求人は少ない。そのため、地元に戻ってくる卒業生が少ない。
- ・高卒の初任給は上昇傾向にあり、県外企業との格差は縮小しているが、大卒の初任給とは格差が依然として大きい状態にあるため、県外企業を選択する卒業生が多い。

<解決のための提案>

進学した卒業生に、いかにして県内に就職してもらえるかが今後の大きな課題と思われる。

- ・企業側では、
 - 賃金アップ対策：省力化による労働生産性の向上と利益の拡大、他
 - 認知度アップ対策：インターンシップまたは、オープンファクトリー等の定期的な実施
 - 魅力度アップ対策：働き甲斐のある職場の醸成、都会にはない魅力の発信（自然・低物価等）
- ・行政側ではUターンのための思い切った対策を実施する。卒業生には、県内企業に就職することを条件に、進学の際の奨学金の50%を補助する。企業には、大卒の採用を強化するために、一定期間の賃金の補填をする。（一人3～5万円/月）
- ・学校側では進学した生徒の動向が卒業まで確認できる仕組みを作る。学校や地域の情報と県内の企業情報を、定期的に知らせるツールを作成する。卒業生が地元就職を希望した場合に相談できる仕組みを、行政と連携して構築する。

以上、4年間の業務の中で感じた内容を記します。湯沢翔北高校の卒業生が一人でも多く地元に戻ってきて、地元を盛り上げてくれることを一市民として心から祈念しております。

AI時代の職業選び

最近よく見聞きする言葉に「ChatGPT」があります。これはApple社のSiriやアマゾン社のAlexaのように日常の言語で質問やリクエストを入力するとAI（人工知能）が普通の文章で答えてくれるというのですが、その回答がとても自然でしっかりとしたものなので、各方面から驚きの声が上がっています。例えば、ある1日の出来事を入力し、それを有名な作家が書いたように感じるエッセイにするように指示すれば、即座にその作家風の文章を作ってくれます。近い未来にAIが人間の代わりになり、人間の仕事を奪うと前々から予想されていますが、この「ChatGPT」の出現で、そこに達する時間が早まったのではないかとされています。しかしながら、中国のベンチャー企業のCEOであるカイファー・リー氏によると、確かに無くなってしまいう仕事もありますが、AIが苦手な分野はあり、そこに着目して職業を考えることが重要だということです。AIには「創造性」「共感」「器用さ」の分野に苦手があり、これらを必要とする仕事はAIには代用されるリスクが少ないということで、およそ20の仕事が例として挙げられていました。「介護福祉士」や「医療従事者」などがその仕事に入っております。今後AIの研究は大幅に進み、生徒の皆さんが社会の中核を担う時には、AIの存在はますます大きくなっていることだと思います。そんな時代の到来を考慮しながら自分の向かう方向を定めていくことは、今の高校生には必要不可欠なことではないかと思わずにはいられません。（菊地）

